

Title	Management by Product Life Cycle - 商品の導入・撤退タイミング見極め法 -
Sub Title	
Author	池田, 章(Yahagi, Tsuneo) 矢作, 恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2113号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	矢作研究室	学籍番号	80530086	氏名	池田 章
(論文題名)					
Management by Product Life Cycle —商品の導入・撤退タイミング見極め法—					
(内容の要旨)					
<p>新商品開発を成功させるために重要な要素の1つである「導入タイミング」について、現状は開発部門の人員等の属人的な都合に振り回され、理論立てたマネジメント手法が不足していた。最終的には、開発システム全体を上げる必要があるが、本研究においては、そのために重要になってくる、過去の実績から次商品の成長性を予測する、モデルチェンジに最適なタイミングを見極めるという方法論に焦点を当てることとした。</p> <p>まず、商品動向をマクロ的に可視化することにより、商品間の比較・相互作用や位置付けが明確になり、限られた資源をどのように割り振るべきかの意思決定をする際、適切な判断を行いやすくなることを示した。それにより、遅れがちな衰退分野からの「撤退」についての判断も客観的に実施しやすくなった。</p> <p>次いで、過去の商品動向をミクロ的に分析することにより、販売開始からある一定期間で、その商品の成長性が予測できることを示せた。また、ブランドはそのままでモデルチェンジを繰り返すシリーズ商品において、モデルチェンジ時期を先延ばしにする弊害はモデルチェンジ後の商品に現れることが分かり、その対策として、プロダクトライフサイクル上のモデルチェンジタイミング・デッドラインといった基準も明確にすることができた。</p> <p>本研究の成果として、プロダクトライフサイクルは、実際に起った現象を事後説明するための結果論として用いられることが多かったが、「タイミングを見極める」という積極的なアプローチ法により、マネジメントすることが可能であることを示す足がかりとなった。</p>					